

全国大会発表奨励賞

第54回全国大会[東京]'23 奨励賞受賞者挨拶

Greeting from the Winners of Encouraging Prize

全国大会発表奨励賞を受賞して

飯塚 達也

(北里大学大学院医療系研究科医学専攻)



この度は日本色彩学会全国大会発表奨励賞を賜りまして、大変光栄に存じております。日頃から熱心なご指導を賜り、私の研究を支えてくださった北里大学の石川均教授、川守田拓志准教授に御礼を申し上げます。そして、本賞に選出していただいた審査委員の皆様にも心からの御礼を申し上げます。

受賞の対象となりました「Cone Contrast Test-HDの検査性能と年齢による影響」という研究は、色覚を評価するための新しい測定法である「Cone Contrast Test」を用いて、先天性および後天性色覚異常を定量評価するものでした。Cone Contrast Testは、網膜受容体コントラスト反応を評価するためのコンピュータソフトウェアであり、熟練した検査員を必要とせず、アノマロスコープに匹敵する検査性能を有することが示されました。この研究により、色覚の正常や異常といった従来の区分にとらわれない色覚の多様性という「色彩学」への将来性を示すことができました。また、私の専攻である「眼科学」への応用として白内障手術後に生じる色の知覚への影響についても議論しました。白内障手術後に生じる色の知覚への影響の一つとして青視症が挙げられます。白内障手術後に挿入する人工の眼内レンズには透明なものや黄色いものがありますが、青視症の訴えは一部で報告されています。従来の色覚検査では定量評価は困難でしたが、Cone Contrast Testでは青視症の縦断的な定量評価に期待できることを提案しました。

今回の発表では、多くの先生方から貴重なご意見と助言をいただきました。全国大会での多様な研究発表に刺激を受け、色彩学の深遠さを実感し、新たな研究への意欲を得ることができました。今回の受賞を励みに、今後もより一層精進して研究に取り組んで参ります。

発表奨励賞の受賞にあたり

牛嶋 淳水

(九州工業大学大学院)



この度は、日本色彩学会全国大会発表奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。大会開催に携わった関係者の皆さま、選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。

今回の研究は、人の発話の声質から想起される色をテーマにしたものでした。近年、マルチメディアの発展に伴い、感覚マーケティングやインタラクティブデザインなどにおいて、色による音の可視化に関心が寄せられています。人は、聴覚と視覚の感覚情報を対応付ける認知特性を持っており、高い音を聞くと明るい色を、低い音を聞くと暗い色をイメージすることなどが知られています。これまでは、楽器や楽曲、歌唱音声など、音楽に関する音と色の対応付けに関する研究が多く行われてきましたが、本研究では、日常生活において最もよく耳にする音である、人の通常発話の声質と色を対応付けることを試みました。その結果、声が高くなると明るい赤系の色が、低くなると暗い緑系や無彩色の色が想起されやすいことなどが明らかとなりました。他にも、声の大きさや明るさなどの要素も、色のイメージに関連することがわかりました。今後は声質と色のより詳細な対応付けについて調査し、暮らしを彩るクロスモーダル表現への応用に向けて検討を進めていきたいです。

日本色彩学会全国大会への参加を通じて、「色」が工学から芸術まで多様な分野で幅広く研究されていることを再認識し、非常に多くの刺激を受けました。また、発表奨励賞という名誉ある賞をいただき、身の引き締まる思いです。今回いただいた賞を励みに、今後も有意義な研究を行えるよう、より一層精進してまいります。

最後になりますが、日頃よりご指導いただいている吉田香先生をはじめ、ご助言くださる先輩、実験に協力くださる研究室の皆さまには、この場をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。